

関連項目：教育活動プラン④

色別縦割り活動を軸とした異学年交流の充実を図る

目的

本校では、人権・同和教育を最も重要な学校課題としている。そのために、互いの違いを認め合い、磨き合い、ともに伸びる仲間作りを推進している。異学年交流は、自分とは違う立場や考え方を理解して協力し合える集団作りに適していると考え、縦割り活動を推進している。

内容

勝間小の色別縦割り活動

全校生を、赤白青黄の4グループに分け、その色グループを更に4班に分けている。そして、6年生の色リーダー・班長を中心に、年間を通して縦割り活動に取り組んでいる。

● なかよし遊びを通しての交流

毎月1回、色別小グループ単位のなかよし遊びを実施している。その日は清掃をなくし、昼の休み時間を15分間延長して、1年生から6年生までが一緒に楽しく遊ぶ時間を設けている。企画・運営は班長を中心とした6年生に任せられており、毎回、終了後はその日の反省と次回の計画を話し合っている。この活動を通して、

- ・ 低学年児童は、遊びを通して人と関わり合うことの楽しさ
- ・ 中学年児童は、集団遊びを通して、ルールを遵守することの大切さ
- ・ 高学年児童は、自分より弱い立場の下級生のことを考えて行動することの必要性を学ぶことができる。

※ 児童の言動の一例

- ・ 「おもっしょかった。明日も6年生と遊べるん？」（1年生）
- ・ 「先生、1年生がおるから、ドッジボールより柔らかいミニソフトバレーボールを使ってもいいですか？」（6年生リーダー）

● 色別対抗スポーツ大会を通しての交流

1年間を通して6種目（リレー・水泳・運動会・ドッジボール・持久走・縄跳び）の色別対抗スポーツ大会を実施している。各種目ともに事前の練習時間を十分に確保することにより、色グループ内の異学年の交流・協力の場を設けている。



※ 児童の言動の一例

- ・ 大縄跳びの連続跳びでなかなか入れない1年生に「いち、にのさん！」と背中を優しく押す6年生。
- ・ 運動会で力強い走りを見せる高学年児童に、歓声を上げる低学年児童。

● 毎日の集団登下校を通しての交流

上級生を中心とした集団登校（毎日）下校（水曜日）を行っている。

※ 児童の言動の一例

- ・ 登校中、転んで怪我をした1年生を学校までおんぶしてきた6年生。
- ・ 下校中、突然の雨に遭い、自分の傘を1年生に渡して走って帰った6年生。

成果

年間を通して、色別縦割り活動を行ってきた。上記のような設定された活動の場だけではなく、休み時間に1年生の教室に行き、いろいろなお世話をする上級生、廊下で登校班長を見つけ、喜んで走り寄る1年生等の姿が見られる。今後も望ましい人間関係作りのために様々な活動を行っていきたい。